



駒ヶ根

協力隊を
育てる会

NEWS

＝ 発 行 ＝
駒ヶ根協力隊を育てる会事務局
〒399-4192 駒ヶ根市赤須町20-1
駒ヶ根市企画振興課
電話 0265-83-2111
E-mail:kizai@city.komagane.nagano.jp

有賀さんから池崎さんへバトンタッチ

— 楽しくも、意義ある事業を —

会長 池崎 保

今年度（5月）、駒ヶ根協力隊を育てる会の会長に推挙され、就任しました池崎保と申します。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

これまで青年海外協力隊とは41年間の外務省奉職時代、本省の技術協力課でJICAや青年海外力隊の事業や予算を担当し、また特にアフリカの在外公館において、協力隊員の受け入れや大使公邸での報告会・慰労会の実施を行ってきました。そして2020年に退官して、移住者として駒ヶ根市を第二の故郷と決めて定住しましたが、今度は国内において協力隊を育てる会と関わることとなりましたことは誠に奇縁という他ありません。

コロナ禍はすでに3年を過ぎ、人の交流、移動が思うに任せない状況下でしたが、昨年10月、3年ぶりに協力隊週間（みなこいワールドフェスタ）が開催され、ドライブシアターやペルー料理教室、国際広場での異国の衣装を着たパレードや中学生によるSDGsセミナー等が開催され、活況を取り戻せたことは実行委員会の活躍と参加者の熱意の賜物と感じ入りました。加えて仕事や勉強の後、夜の打ち合わせや本番の行事に伊南地域の方々が笑顔でボランティアをされている姿には頭が下がる思いでした。

このように「駒ヶ根協力隊を育てる会」が、伊南地域に根付き、地域の宝である協力隊訓練所と協働しながら、伊南地域の皆さんの国際交流や国際理解のための諸活動が活発に展開していくことは、皆さんの世界に向けての視野を広げ、地域創生にも繋がり、楽しく、未来に開かれたまちづくりの一助となることを確信しています。

これまで40年間育てる会に尽力されてこられた諸先輩方

のご尽力に敬意を表すると共に、コロナ禍が収束した暁には、協力隊週間

（みなこいワールドフェスタ）のみならず、中学

生の体験入隊や隊員との

交流事業、上伊那地区の

教員研修、小・中学生や

大人の国際理解の場の提

供等の事業を訓練所と共に

に再開したいと考えてい

ます。

加えて、これまで訓練所のある駒ヶ根市を拠点



左:有賀前会長

右:池崎会長

として育てる会の活動を伊南地域に拡大してきましたが、今後とも訓練所や育てる会の長野県での認知度を更に高くするため、楽しく、意義のある活動を皆さんと一緒に企画・展開して参りたいと考えております。

まだまだ慣れないことが多く、人脈形成もこれからです。みなさまのご支援無くして育てる会は育てられませんので、ご支援・ご鞭撻の程宜しくお願いいたします。

支援することは支援されること

前会長 有賀 秀樹

2017年から、5年間、皆様方に大変お世話になりました。振り返ってみると、変化の大きな5年間だったと思います。就任早々の第24回みなこいワールドフェスタは大型台風接近により開催の可否が危ぶまれる状況の中、なんとか開催にこぎつけました。19年には、駒ヶ根訓練所40周年を迎えることが出来ました。20年からは、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大による、隊員の任国からの一斉引き上げ、派遣中止・訓練中止等、協力隊存続の危機と言えるほどの激変の時でした。このような変化の中にあっても、折々の入所式・修了式に列席し、隊員に接することができたのは、大きな喜びでした。

なにより、私自身が学ばせていただいたのは訓練所プログラム中の地域実践からでした。

これは、従来あった所外活動に変えて、隊員候補生が地域に出向き、実践力向上・地域との交流・地域活性化を目指す活動です。10力所ほどの受け入れ先で、祭りへの参加、商店街活性化、公民館・外国籍住民支援等々の活動に参加してくれました。私達の主催している「学び舎」へも参加してくれています。地域の課題に、共に向き合うという点で大変意義深いものです。地域を歩き課題を掘り起こしたり、具体的な仕事づくりをしたりしました。一例では、高齢者の悩みに触れ、「私たちが駒ヶ根の孫になる」という活動に結び付きました。候補生にとっても、地元の人たちにとっても、得るところ大の活動です。このコラボに参加した学び舎の一人は、候補生の姿から生きる勇気をもらえた「広い視野がすごい」等。また候補生は「人との関係の作り方を学んだ」「支援するつもりが逆に教えられた」等と語っています。お互いを高めあう貴重な体験となりました。支援することは、一方的なものでなく相互性のものでと痛感します。現在中断している、この地域実践の講座が再開される日を、とても待ち遠しく感じています。

これまでの、会員の皆様、伊南四市町村の行政の皆様、地域の皆様方の暖かいご支援とご協力に、深く感謝し退任のご挨拶と致します。

第29回 協力隊週間 ～みなこいワールドフェスタ～

実行委員長 坂元 洋

「2022年第29回協力隊週間～みなこいワールドフェスタ～」を令和4年10月22日から30日の期間で開催しました。新型コロナウイルスの懸念はありましたが、感染状況は落ち着きつつあると判断し、最終日には、駒ヶ根市の銀座通りで「国際広場」を開催しました。今回も多くの中学生、高校生、大学生、社会人の方が協力してくれました。

準備期間中は、新型コロナウイルス感染拡大の心配があり実行委員会メンバーが集う会議がなかなか出来ない中、各部会（遊び・食・異文化・国際協力・情報・調整）を中心に進めていきました。昨年に引き続き、協力隊訓練所がある地域だからこそ出来る事業にすべく、各企画は「×（掛ける）協力隊」をキーワードとして熟考しました。そしてテーマも昨年同様、「海がなくても、空港がなくても、ここで見られる世界がある」としました。

昨年好評であったドライブinシアターを再び実施しながら、新型コロナウイルスに警戒しつつ、人が集う企画である料理教室、パネルトーク、各国の衣装を着ての写真撮影を開催し、リアルでの体験・発見の場を作り上げました。

「国際広場」では、恒例だったスタンプラリー、世界の遊び、ワールドレストランに加えて、外国の衣装を着て撮影した異文化写真展、外国の衣装を着てみんなで歩いたパレードなどを新しく企画しました。

今回の協力隊週間は今まで以上に、ただ観るだけではない、体験や発見ができる、より楽しめる場になったと思います。



パネルトーク&グループディスカッション



地球の料理教室（ペルー料理）



ピニャータ飾り（東中学生制作）



私たちが始めるSDGs（赤穂中学生）



異国の衣装を楽しんだHAPPYみなこいパレード



世界の遊び（ティハール砂絵）

Bienvenue au centre de formation Komagane!※

JICA駒ヶ根 所長 小林 丈 通

SDGs展示前にて
(訓練所エントランス)

新型コロナウイルスはいまだに世の中に暗い影を落とし続けていますが、JICA駒ヶ根訓練所では2022年度には新たに4隊次にわたり合計で222名の候補生を受け入れました。そして2023年度には、さらに多くの候補生を受け入れる予定であり、ポストコロナを見据えた事業の正常化に向けしっかりとその歩みを進めているところです。

新型コロナウイルスに影響を受けた訓練所の事業は、なにも候補生の受け入れだけではありません。実は、訓練所を訪問したいとの要望を長野県はもとより全国の教育機関等から受けているものの、感染予防の観点からそれらの要望になかなか応えることができていないのです。

そのような状況に訓練所スタッフ一同は忤怩たる思いだったのですが、訓練所スタッフは情熱と創意工夫のマインドを持ち続け、新型コロナ禍という逆境にめげることなく、訓練所への訪問再開に向けた施設のリニューアルをコツコツと進めてきました。

その内容はというと、まずは訓練所の顔であるエントランス部分の展示スペースをSDGsに関する情報を知ってもらえる内容にリニューアルしました(写真)。SDGsと開発途上国の関連性についてのクイズもあり、来訪者の皆さんにはSDGsについて楽しく学んでいただけたと思います。

また、近い将来、プロジェクターを用いて開発途上国を疑似体験することができるスペースがエントランスとVRルームに設置される予定です。これらの新しい施設は、諏訪市に本社を置くEPSON社からの協力を受けて設けられるものです。スペース全体に映し出される世界の現場を、ぜひとも訪問される皆さんに体感していただきたいと思います。

特に、「みなこい地域」の小中学生の皆さんには、在学中に少なくとも一度は訪問してもらい、地域の皆さんに支えられている駒ヶ根訓練所をもっともっと身近に感じていただきたいと考えています。これを読んだ小中学生の皆さん、そして先生方、教育委員会の皆さん、いつでも訓練所にお越しくださいませ！

※Bienvenue au centre de formation Komagane! フランス語で「JICA駒ヶ根へようこそ！」

みなこい出身隊員の活動報告

隊員名：鯉澤 耕平

派遣隊次：2022年度2次隊 派遣国：ルワンダ

Muraho!(こんにちは!) 私は今、東アフリカにあるルワンダ共和国にサッカー隊員として赴任しています。配属先は首都キガリにあるサッカークラブで、5歳から18歳までの子供を対象とした技術指導、同僚コーチたちへの指導実践を主な活動としています。

ルワンダは、先進国かと思わせるような綺麗に整備された場所もあれば、首都であっても少し脇道にそれるだけで、赤土と強い日差しを感じるTHEアフリカ!といった面が広がる国です。また、ルワンダは治安が良く日々の生活でも危険を感じることはほとんどありません。さらに赤道に近い国ながら、平均標高が1,600mと高地のため気候も良く快適に生活できます。しかし、断水や停電が頻繁に起こるなどしっかりとアフリカで暮らしてる事も感じさせてくれます。

そんな中、実際に活動してみるとフランス語、英語、キニアルワンダ語が入り混じる会議やグラウンドやボール不足の問題から思ったような活動が出来なかったりと悪戦苦闘しています。時間通りに活動が始まった事も片手で数えられる程度しかありません。それでも、多くの子供たちが試合を見に集まり、目を輝かせながらボールを追いかける姿が自分の原動力となっています。



赴任するまでは、すごく遠くて違う世界だと思っていたアフリカですが、来てみると意外と近くに感じます。しかし、来てみないと分からない知らない世界もたくさんあります。今まで経験したことがない文化や習慣、風景が目の前に広がる刺激的な毎日です。まだまだ活動は始まったばかりですが、ルワンダのサッカー界に貢献すると共に自分に協力隊の道を教えてくれた方々のように、次は自分が誰かのきっかけとなるように頑張ります!!



隊員名：中島 雅樹

派遣隊次：2019年度3次隊 派遣国：ヨルダン

中東ヨルダンに派遣されてから1年と7ヵ月が経ちました。後、数ヵ月で日本への帰国が迫っており、なんだか寂しい気持ちになりがちな今日この頃です。

派遣されてからの今日を振り返ってみると私自身たくさんのことを学ばせていただきました。派遣当初は中東ということもあり、家族から反対されたこともありましたが、普通の日本の日常生活では“中東”というと危ないというイメージが先行しがちだと思います。しかし、実際にヨルダンに派遣されて、生活してみると人々の優しさやおもてなしの文化に魅せられることの方が多い気がします。町を歩いてみれば、人々が気さくに話しかけてくれて、今ではすっかり顔なじみになりました。町全体が一つの家族のような温かさがあります。

私は日本に帰国したら、中東の魅力や海外を知ることの大切さを伝える活動をしていきたいと考えています。特にここヨルダンは北海道と同じくらいの面積の国ですが国土の半分が砂漠に覆われています。地方では今でも砂漠での遊牧民の暮らしの名残が残っています。アラブの客人に対するおもてなしの文化はこの砂漠での生活に一説によると根付いているそうです。砂漠では一人では生きていくことはできません。厳しい砂漠だからこそ他者をもてなす文化が育ったのだと思います。私も実際に何度も家庭にお邪魔して、おいしいお茶やアラブ料理をごちそうになりました。

中東ヨルダンは“協力隊としての任期が終わった後もまた何度も訪れたい!”と思わせてくれる国です。



駒ヶ根協力隊を育てる会 設立40周年



2022年、駒ヶ根協力隊を育てる会は設立40周年を迎えました。このことに合わせ、訓練所活用・広報部会を中心に「40周年記念パネル展示」を制作しました。縦約1.2m、横約6.7mのパネルには、1983年の発足時からの主な事業や出来事を文章と写真で紹介しています。パネルは、伊南4市町村を巡回し、現在は、JICA駒ヶ根青年海外協力隊訓練所で展示され、JICA海外協力隊として活躍する候補生の皆さん等、多くの方に当会活動を知っていただく機会となっています。

JICA海外協力隊候補生 JICA駒ヶ根訓練所入所時の激励旗設置へご協力いただける方を募集!

JICA海外協力隊は、JICA駒ヶ根訓練所に入所し約60日間の派遣前訓練を受け世界各地の派遣国へと旅立っていきます。こうした有志ある皆さんの訓練所入所を歓迎する意味を込め、訓練所近辺に激励旗を設置する活動を行っています。(活動は年4回程・時間は30分程度)現在、旗の設置にご協力いただける方を募集しております。ご協力いただける方は、事務局までご連絡ください。



旗の設置にご協力いただける方を募集しております。ご協力いただける方は、事務局までご連絡ください。

会員募集中

「駒ヶ根協力隊を育てる会」では、会員を募集しております。ご関心のある方はお気軽に事務局までお問い合わせください。(会員の方で令和4年度会費未納の方は、ご協力をお願いします)

■申し込み・問い合わせ先

事務局／駒ヶ根市企画振興課

電話／0265-83-2111(内線 245)

E-mail／kizai@city.komagane.nagano.jp



学用品のご提供

ありがとうございます!

地域の皆さんから寄せられた学用品を、JICAが行う2022年秋募集「世界の笑顔のためにプログラム」を通じて世界各地の子どもたちにお届けしました。

●ブータン……リコーダー 5本

●カンボジア……鍵盤ハーモニカ 10台

当会では、左記のような物品のご提供を受け付けております。使わずにしまつてある物品がございましたら、市役所企画振興課(本庁舎2階)で随時受け付けておりますので、ご協力をお願いいたします。

＜対象物品＞

書道セット、リコーダー、鍵盤ハーモニカ、そろばんなど

※破損や汚れがひどい物はお受けできません。楽器はケース付きの物のみとさせていただきます。

受付け

付

け

が

可

能

か

う

ご

持

参

り

た

だ

く

前

に

左

記

事

務

局

へ

お

問

い

合

わ

せ

く

だ

い

